

日刊 勤労千葉

80.6.13
NO.455

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
電話二二五八〇九(公衆電話)二七二〇七

処分撤回まで闘い抜く 意志統一がちとる！ 新小岩支部職場集会

*** 六月十日、新小岩支部職場集会は約八十名が参加する中で開催され、不当処分粉碎、反合・三里塚ジェット闘争の貫徹へ向けて、さらに強固に闘い抜いてゆく意志統一がちとられた。***

自信にあふれた闘い

構内のいたるところに「不当処分粉碎・反動秋山局長追放」のスローガンやピラがはりめぐらされ、「六・一五バイブライン阻止集会」への結集を呼びかける青年部の立看やサークル協・ハイキングの写真がはられた掲示板等々、新小岩支部全体が静かな中にも自信にあふれている状況の中にある。

講習室での集会は若林書記長の司会で進められ、松崎支部長のあいさつの後、本部から参加した布施・関両執行委員を代表して、布施執行委員からの決意をこめたあいさつと経過と闘いの意義、今後の展望についての提起が行われた。

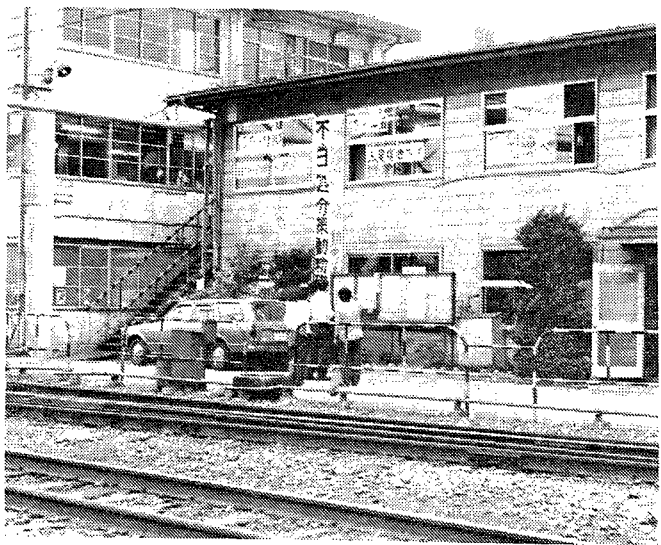
そして、この提起を受けて三六協定の破棄に伴う闘争上の問題点や具体的闘いの進め方についての質疑、討論が行われ、不当処分粉碎まで断固闘い抜いてゆく意志統一がちとられた。

みんなが怒っている

集会の中では、非協力闘争と日鉄法三十三条の関係や三六協定破棄に関連した具体的な勤務の取り扱いの問題点等についての討議と、「昨年の四・一七津田沼や四・二一新小岩におけるあらん限りの反動分子の暴力を容認しておきながら、四・一五の反動分子の暴力を口実に、千葉に対して不当処分をすることは許せない」という怒りが意見として多く出されたが、「日刊」編集委員会は集会後何人かの組合員にインタビューし意見を収録した。

△Sさん 40才・機関士▽

「本部」反動分子が春闘の最中に自分の職場での闘いを放棄してわれわれの職場を荒しにくることは絶対に許せない。当局が二百六十名ものヘルメット部隊が入ってくることを容認し、勤労千葉に処分を出すなど論外だ。ヤツラがヘルメット集



「不当処分粉碎のたたかい
俺自身のたたかいだ……!!」

団で来るときは勤労千葉への襲撃以外に考えられないのは常識だ。

「本部」と当局の一体となった策動を充分警戒しながら闘い抜きたい。

△Yさん 49才・機関士▽

四・一五処分はどう考えてもおかしい。連中はやる気で来たんだ。実際に現場を見た人がみんな怒っている。当局は滝口君のときもデッチ上げ処分をした。絶対に許せない。

△Oさん 53才・検査係▽

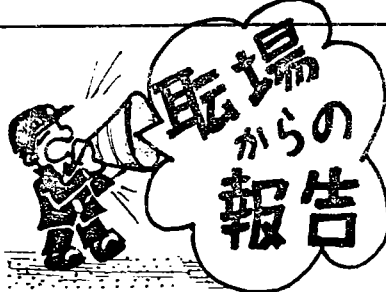
春闘で勤労千葉が闘おうとしているところへ「本部」が闘いをブッコわすために来たことははっきりしている。ヤツラは労働者じゃない。ヤツラが来なければ四・一五のようなことは起らないんだ。ヤツラが来ることを認めているということは当局と「本部」がグルだということの証明だよ。

△Oさん 30才・機関士▽

勤労千葉が「日刊」等で明らかにしていることが全部正しい。俺は、この闘い(不当処分粉碎)は組合の指令だから闘うんじゃない。自分自身の闘いだ。こんな処分をする当局を許していたら機関士なんか危なくてやっていられない。当局が処分を撤回するまで絶対に闘いをやめない。

「不当処分粉碎は 自分自身の闘いだ」

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！



全国区
社会・現
日教組出身
かすや照美 (粕谷) てるみ
千葉地方区
社会・現
県労連顧問
赤桐操 あかぎり みさお

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！